

マ イ ム

(1)

日本ボーイスカウト
東京第四団機関紙

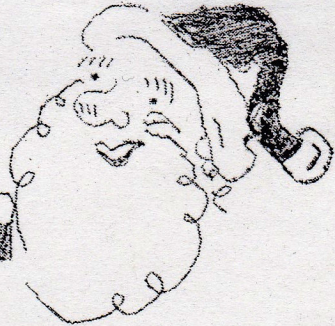
No. 53

DECEMBER
27

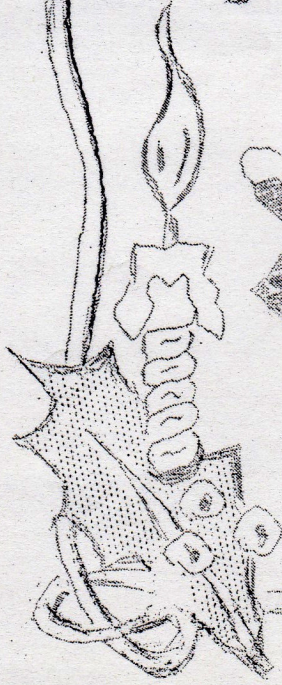
SMILE

1958

クリスマス



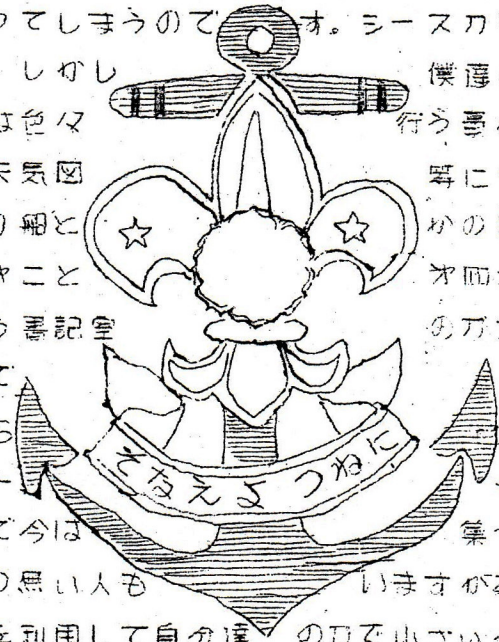
クリスマス



シースカウト

高初彰男

シースカウトとは一体何に? という人はいないと思いますが、どういふことをしているのか? いつも集つて何をしているのが解らない。一番目立つたコニフォームを着ているのに..... ぞういふ人がいらつしやるのではないですか? ですのでシースカウトの事を少しお話しします。一般にシニヤーの命令は大学の受験プログラムの行きづまりで仲々活動できなくなつてしまふので..... シースカウトもやはりその様な時もありました。しかし僕等の場合は命令的は事だいでプログラムは色々行ふ事が山程ありました。海図について帆船天気図等の見学に行つて人員は少なかつたが毎月オニオのガムルームの中で活動して居たのです。でも最近年々も下つて平均命令は15.6オニオで休隊者も出て14人リーダー4人(クルー1.5人クルー2.5人)計10人で今は集つています。でも回りはスカウトの経験の無い人もいますが互に協力し毎週土曜日曜と自分の余暇を利用して自分達の力で小さいが隊の舟を創り出しました。最近はお庭でいつもオニオSHIPを作つて居たので活動の様子はお解りになると思います。でもオニオを作つて遊ぶのがシースカウトでなく国際信号船等について研究し又技能章(沿岸視察)等を蓄くためにスカウトの方も早く1級以上になる様に訓練しております。階級はオール(見習)2級以上の事ができた時、セイル1級以上技能章(個人衛生要の水泳の沿岸視察艇艇乗急の内5つ以上)、スクリューウタリンと4階級シニヤの白を緑葉等と同じです。それがう待望の隊キャンプを大成功致しました。人員は8人でラウンドシップを作りごきげんのキャンプでした。O.O.D(OFFICER ON THE DECK)当直士官が30分毎に鐘を鳴らし4時間毎に交代しその時間内の要領及び天候風向風速雲量等を知らせて又のO.DDに報告して行くのをやり今もその報告用紙を見ろとはつきりキャンプ一日一日が思いだされます。又今年は三周年のBIRTH DAY を迎え新しい8人が(5ページにつづく)



シニヤ班の今年の活動

年長スカウト 野 俣 勇 吉

シニヤ班は今年の4月に数人の高橋生によって発足した年長者のグループである。その主な目的は登山及び高度のスカウト技術の修得と奉仕とがあげられる。発足当時は人員も少なく活発な活動もできなかったが5月に入ると豊福さんがリーダーになられたのをはじめ、その他の役員の内訳や細かい一年間の計画が決まり、内面的一歩一歩と充實していった。六七日にはもっほのキャンプに備えて班の備品を整え、その資金を稼ぐためにアルバイトをやるなどよい体験をした。又そのキャンプで「マムシ」を薪え料理して朝食のオカズにして食べたが、これはシニヤ班の干キャンプ場における野人ぶり(野蛮人に非ず)はじめず一つのおもしろいエピソードであろう。

10月の高尾山におけるナイトハイクは2人1組のパートを組み出発時間やコースはまったく別々にし午前3時までには定められた地点へ地図と磁石だけを頼りに行き着き、そこで翌朝まで眠るといふ風な変わったハイクをやった。

現在の計画は雪中キャンプを我々が考案したテントで行なうことであるがそのテントはすでに型もきまり実物大の模型ができてつある。又今年の冬には全員がスキーを滑れるようになるための計画を立てている。

発足してから8ヶ月たった現在、リーダーの豊福さん以下総員12名となったがまだまだ規模は小さい。しかし、国委員会においてモシニヤ班の活動が認められたので我々の目標である隊結成に一日でも早く到達すべく努力するつもりである。



きむしを食つた連中会話

ぶつうやいて箸にする人はいますか、連中はしやゆとあとうて、煮てたべとおわりにその汁まで御飯にかけてたいらげたというんですから「煮たわがしやゆはぶつたまげた」とはいふのが人のことほ

(4ページ) オールスカウトとしての筆を完了し、その席上田中団委員長からユニフォームを授与され、シニヤスカウトの一員として、今後シニヤスカウト東京第四隊は旗手を有し、火に油を注いだ壁に活躍することをこの紙面を踏じお約束すると思ひます。(ボーン)

ハンディクラフト

時計バンドの作り方

今田 富士 確

われわれスカウトにとつて冬は暖と違つて野外活動の面では相当に制約をうけます。勿論、寒さにはまげるとはいふまでもなく、寒中やマンブ、オーバータイトハイク等としたり行つて高直ぐみですが、同時に靴コナリや自今のは履き難の野外活動に備えて大いにハンディクラフトをしまつてはありまてんか。

もう一つは、作るものは天山ありまです。自分の身の廻りにあつてもバンド、ワイフ、ワイフのケース、テント、リュックツク、いろいろありますが、自分で作ったものを使ひつけていくのは楽しいものです。よ、店に買つて居るせんから相

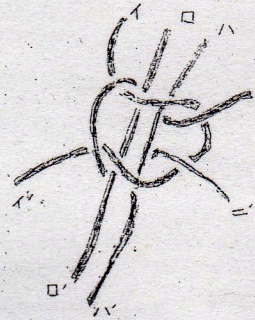
さて、今向はスカウトに入つて一番初めに五冊あるもの「下ワムスピ」の中にこれだけお尋ね前知ら知つて居る「本結び」を使ひて時計のバンドを作る時計のバンドは、お尋ね前知ら知つて居る「本結び」を使ひて大きく長くしてバンドを作つても

下ワム
自分で作ったもの、表を左のものなど
「お尋ね前知ら知つて居る」
「本結び」を使ひてほしいと思ひます。
「本結び」の厚さをどうぞ。(係)

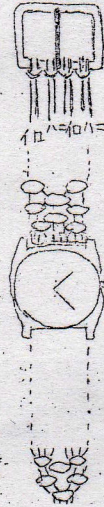
材料—「ビニール」又は「タコ糸」

一米のもの八本(二色も可)
八十纏のもの二本

作り方—基本になる型を画解します。左の様に作り出すが、注意する事は必ず中に「ロ」の二本を入れる事と縫ひの順序を同じにしなければなりません。



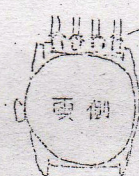
定す、美観の部分を作ります。美観の金部分は「一結び」で縫ひてしうします。両端は中に入れて一米のひも二本を三つ折にして「カースピツキ」をこめまます。



そして、それぞれ本結びを結び、次に五の「ロ」と石の「イ」をレシムにして結び、次に前の様に各々の「ロ」をレシムにして結びます。「ロ」をレシムにしての適當な長さに来たら、時計の部分に止め

ますが「カースピツキ」を結び時計の金輪で本結びをして適當な長さに切りまます。

本結び



次に、段の穴のあいて居る部分を作ります。先の部分から先ず結びまますが、二本を三つ折にして結び、「イ」「ロ」と「ハ」が同一としキマす。次に「ロ」を新しく二つ折りにしてのこを結び石も同様にしまます。適當な長さにして時計に結びまます。

次に、八十纏を二つ折にして適宜又折り、それを中心にして本結びを縫ひて行き、美観を本結びで結んで止めおわります。

これらででき上ります。(少少誤差あり)

綴面の関係で説明せたりせんので線らない点は

ハンディクラフトの巻末
「内」英語で「HANDICRAFT」をかきます。主に「手」をつかつて居るものを使ひまます。ここに作つて居るものが、いわゆる日本語であつて「手」を「手」でしよう。でも、何だかひたりしませんが。(係)

